

第2学年 国語科学習指導案

2組 計26人（男子14人，女子12人）

指導者 橋口盛文

1 単元 「お話，大すき」

（教材「お話がいっぱい」「こんなお話考えた」光村2年下）

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは，第1学年「おはなしよんで」「ほんとなかよし」の学習を通して，昔話や童話などの読み聞かせの体験をしてきている。そこから様々なお話と出会い，想像しながらお話を聞く楽しさを味わうと共に，読書に親しむ態度が育ちつつある。書く活動においては，第2学年「かんさつ名人になろう」の学習で，観察や取材で発見したことや思ったことなどについて，簡単な組立てを考えて文章を書く経験をしてきている。

そこで，これまでの学習を生かし，子どもたちが場面の様子や人物の気持ちなどについて想像を広げながら，楽しくお話を聞いたり，読んだりするとともに，提示された挿絵をもとに，想像を広げながら簡単な組立てを考えてお話を書き，絵本を作り，紹介し合うことをねらいとして本単元を設定した。

教材「お話がいっぱい」は，読み聞かせや自分で選んだ本を読む活動を通して，場面の様子を想像したり，登場人物の気持ちを考えたりするなど，お話の世界にたっぷりと浸りながら，本への興味・関心を高めることを目的とした教材である。次の「こんなお話考えた」は，3枚の絵をもとにお話 of 構想を豊かに考えたり，場面の様子などについて想像を広げながら楽しくお話を作ったりすることから，この時期の子どもたちの学習にふさわしい教材である。

本単元で子どもたちは，「お話がいっぱい」の学習を通して，本に慣れ親しみ，実際に自分で読み物を探して読んだり，友達と読んだ本について交流を図ったりすることができる。そして，「こんなお話考えた」の学習では，「はじめ」「中」「おわり」を意識した3部で構成を考えたり，場面や登場人物の様子，会話を想像したりしながら，お話を書いて楽しむことができる。なお，その過程では，お話の組立方や主述の整った文を書くことなどについて話し合うことにより，楽しみながらお話作りができると共に，何を伝えたいのか分かるお話を書くことができる。

ここでの学習は，紹介したいことをメモにまとめたり，文章に書いたりする「楽しかったよ，2年生」の学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">○ 楽しみながらお話を読んだり，作ったりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】○ 自分の使ったお話を紹介したり，友達のお話を聞いて感想を述べたりすることができる。 【話す・聞く能力】○ 挿絵から想像を広げ，考えを整理しながら，簡単な組立てを考えてお話を書くことができる。○ 作ったお話を読み返し，表記の間違いや筋の通らないところを見つけたら書き直すことができる。○ 事柄の順序を考えながら，語と語や文と文との続き方に注意しながら書くことができる。 【書く能力】○ 場面の様子や人物の気持ちなどについて，想像を広げながら読むことができる。 【読む能力】○ 句読点やかぎ（「 」）などの使い方を理解し，文の中で正しく使うことができる。 【言語についての知識・理解・技能】 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは，発声に気を付けながらはっきりと音読をしたり，場面の様子や登場人物の気持ちについて考えながらお話を読んだりする子どもたちが多くいる。また，昔話や童話などの本をとて喜んで読んでいる。書く活動では，五感で感じた様子や思ったことを表現することの好きな子どもたちが多くいる。しかし，語と語，文と文をつなげなかったり，自分の伝えたいことが十分に書けなかったりする子どもたちもいる。話す活動では，自分の考えに自信がない，恥ずかしいなどのやや発言が消極的な子どもたちもいるが，ワークシート等に自分の考えを整理することで，分かりやすく友達に自分の考えを伝えることができるようになってきている。

イ 本単元の内容にかかわる実態

① 絵本や物語を読むのは好きですか。 ア 好き 100% イ 嫌い 0%	④ 文章を書くことが好きですか。 ア 好き 80% イ 嫌い 20%
② 発表することが好きですか。 ア 好き 72% イ 嫌い 28%	⑤ お話を書いたことがありますか。 ア ある 20% イ ない 20%
③ 話合いは好きですか。 ア 好き 76% イ 嫌い 24%	⑥ どんなお話を書いたことがありますか。 ・鬼が登場する話・公園で遊ぶ話 ・料理の作り方 ・漫画のように楽しい本

子どもたちは、これまでに読み聞かせや自ら本を選んで読むという読書経験から、「本を読むことが楽しい、おもしろい。」などと感じている。そして、本を読んでお話の世界に入ったり、本からいろいろなことを学んだりできるという理由から、全員が本好きである。朝の読書時間や休み時間なども、自ら本を開き読んでいる子どもたちが多く、図書室をよく利用し、月間貸出冊数もおよそ15冊(学級一人平均)である。また、読んでいる本について、友だちと話をしたり、本の紹介カードでみんなにお知らせしたりしている姿も見られる。

発表に関しては、「友達の意見を聞いて、自分の考えを確かめることができる。」「発表でみんなが分かるように説明することが楽しい。」などの理由から発表が好きな子どもたちが多い。しかし、一方では間違ふことや上手く説明できないこと、みんなの前で発表することが恥ずかしいという子どもたちがおよそ3割いる。そこで、教師の発問から子どもたちが発表をつないでいくことで、自他共に自分の考えを確かめたり、さらに高めたりすることができることを感じさせられるようにしたい。

書くことに関しては、文字を書くことを面倒に感じたり、文がつながらなかつたりすることから、苦手意識を抱いている子どもたちが2割いる。しかし、数多くの子が、日記を書いたり、先生や友達に伝えたいことを書いたりすることを好んでいる。一方では、お話を書いた経験のある子どもたちは少ない。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子どもが自他の学びをつなぎ、学びを生かすことができるように、以下の点に留意して指導していく。()内は、五つの言語意識

- 「つかむ」過程では、本単元で取り扱う本や子どもたちがお薦めの本として選んでいる図書を教室内に関連図書として置くことで、子どもたちがすぐ手に取って読んだり、学習に活用したりすることができるようにする。そして、「まとめる・広げる」過程で自分たちの手作り絵本を1年生に楽しく紹介するという単元の学習課題を設定することで、学習意欲をもち続けながら、教材文で学んだことを生かし、オリジナルの絵本を作ることができるようにする。(相手, 目的)
- 「深める」過程では、教材文を取り上げることで、お話の構成や登場人物の会話、場面の変化がどのようになっているかなどを話し合うことができるようにする。そして、お話の構成や文の主述の関係、これまで学習で学んだつなぎ言葉など、教室に掲示したり、ノートに整理したりしておくことで、絵本を作るときの方法や手順を想起し、スムーズに活動を進めることができるようにする。また、作品交流の観点を提示し、相互に読み合うことで、読み手が読みやすく、分かりやすいお話にするための工夫を明確にすることができるようにする。
- 「味わう・高める」過程では、意図的座席、ペア学習を設定することで、これまでの学習を一緒に振り返ったり、協力したりしながら手作りの絵本を作ることができるようにする。準備の過程で、あらすじや場面構成、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」を整理するワークシートを準備することで、場面のつながりを考えながら絵本を作ることができるようにする。(方法)
- 「まとめる・広げる」過程では、手作りの絵本を読み聞かせする形態で活動し、まず学級の友達に紹介していくことで、多くの友達と意見や感想の交換ができるようにする。そして、発表の場では、作る過程で工夫したり、気を付けたりしたことを観点に、意見の交換ができるようにする。また、1年生に絵本の紹介をする際には、教室に3か所の発表ブースを設け、多くの1年生に読み聞かせができるようにする。(場面・状況, 評価)

4 指導計画 (全16時間)

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	3	1 ブックトークや読み聞かせを聞き、自分で読んだり読んでもらったりして、話を楽しむ。	○ 1年生「おはなしよんで」「ほんとなかよし」1学期の学習「大人気本屋さん」の学習を想起させながら、これからの学習意欲を持たせることができるようにする。 また、司書教諭や司書補に協力してもらうことで、子どもたちが1単位時間により多くの読み聞かせやブックトークを聞くことができるようにする。
		2 手作りの絵本の読み聞かせから、学習のねらいや計画について話し合う。	
深める	6 (本時4/6)	3 自分で本を探して読み、紹介カードにあらすじをまとめたり、心に残ったところを書いたりし、友達と紹介し合う。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 楽しみながらお話を聞いたり、読んだりすることができたか。(発表・ワークシート) 【国語への関心・意欲・態度】 場面の様子や人物の気持ちなどについて、想像を広げながら読むことができる。 (発表・ワークシート)【読む】 </div>
		4 教材文をもとに、お話や絵本はどのような構成や作りになっているかについて話し合い、学習活動の流れや絵本作りの手順について確かめる。	
味高める	5	5 3枚の挿絵から、お話を作る。 ・主人公や構成を決める。 ・あらすじを決める。 ・お話を書く。 ・語と語、文と文のつながりを確かめる。 ・後書き、表紙などを工夫する。	○ 各構成の場面で「いつ」「どこで」「だれが」「何をどうした」という表を作成し、書き込ませることで、大事な言葉を落とさず書くことができるようにする。 ○ 子どもたちの作品の中から、意図的につなぎ言葉や読み手が想像したり、読み手が読みたいと思ったりする言葉を例示することで、より分かりやすいお話が完成できるようにする。
		6 できたお話について意見交換をする。	
ま広げめる	2	7 二人組で手作り絵本を作る。 (1) 登場人物や構成、あらすじなどについて話し合う。 (2) 挿絵とその場面について話し合う。 (3) あらすじや挿絵に沿ってお話を書く。 (4) 手直しをする。(推敲) (5) 絵本を仕上げる。	○ 前時までの学習の流れや活動の様子を教室に掲示し、振り返らせたり、想起させたりすることで、ペアでの学習がスムーズにできるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 挿絵から想像を広げ、考えを整理しながら、簡単な組立てを考えてお話を書くことができたか。 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意しながら書くことができたか。 作ったお話を読み返し、表記の間違いや筋の通らないところを見つけたら書き直すことができたか。(作品・発表)【書く能力】 </div>
		8 完成した絵本を使って、学級で発表会を開く。	
		9 13冊の絵本を読み聞かせの形態で1年生に届ける。	○ 前時までの学習活動の様子を想起させることで、1年生に発表するときの観点や心構えをしっかりと持たせることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 自分の使ったお話を紹介したり、友達のお話を聞いて感想を述べたりすることができる。 (発表)【話す・聞く能力】 </div>

5 本 時 (7 / 16)

(1) 目 標 あらすじをもとにし、挿絵から想像を広げ、お話の「中」の文章を書くことができる。

(2) 展 開 () は教師の言葉かけ () は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目と個に応じた指導 ☆ は ICT 機器活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む (5)	<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <p>・前の時間は、どんな学習をしたかな。 ・今日はどんな学習をする計画ですか。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <p>お話のあらすじをもとに、「中」の部分のお話を書こう。</p> <p>3 学習の進め方を知る。</p> <p>1 教材文の「中」の部分を読んで、書き方についてみんなで話し合う。 2 自分のあらすじと挿絵に沿って「中」のお話を書く。 3 書いたお話を紹介し合う。</p> <p>4 教材文の「中」の文を読み、書き方の工夫など気付いたことについて話し合う。</p> <p>どんな書き方の工夫がありましたか。</p> <p>・だれが(何が)、何をどうしたと、はつきりと書かれている。(主述の関係) ・主人公の二人だけでなく、挿絵にある小鳥の会話もある。 ・時間が過ぎていっている。など</p> <p>5 書き方の工夫や書くときに気を付けることなどを考えながら、あらすじに沿って、お話を作る。</p> <p>6 お話を友だちと交換して読み、作品について話し合う。 (1) 友だちと交換し読み、よいところを見つけて。(ペア) (2) みんなで、友だちの作品のよかつたところ、工夫していたところについて話し合う。(全体)</p> <p>・「いつ・どこで・だれが(何が)・どうした」がしっかりと書かれていた。 ・会話文が書かれていた。・つなぎ言葉が使っており、分かりやすかつた。 ・場面の様子が分かりやすく書いてあった。</p> <p>7 今日の学習を振り返る。</p> <p>「主語・述語に気を付ける。会話文を入れる。場面を説明する。つなぎ言葉を使う。」に気を付けて書くと、読む人が分かりやすいお話になる。</p> <p>8 次の学習について確認する。</p>	<p>○ 教材文の「はじめ」の文や挿絵、学習の様子の設営をもとに、これまでの学習の様子を想起させたり、学習計画表を確かめたりすることで、これまでの学習活動と本時の学習内容に関連付けとらえることができるようにする。</p> <p>○ 前時の学習活動を振り返る際にどのようなことに気を付けて書いたかを想起させることで、本時の学習課題を明確に捉えらるるに、活動の流れをおおそつかむことができるようにする。</p> <p>☆ 電子黒板に教材文や挿絵、学習の流れを提示することで、本時の学習活動の展開や方法について確認できるようにする。</p> <p>☆ デジタル教科書を活用し、前時の学習で気付いたことや書くときの工夫について提示することで、本時の気付きと関連付けながら話し合うことができるようにする。</p> <p>○ 挿絵と教材文が関連付けて書かれていることについて確かめたり、これまでの学習の足跡の提示に気付かせたりしながら、教材文の書き方の工夫や気付きを整理することができるようにする。</p> <p>挿絵から想像を広げ、あらすじを考えながら、お話の「中」の文章を書くことができたか。</p> <p>(ワークシート・発表)【書くこと】</p> <p>◆ 書くことが難しい子ども → 挿絵の登場人物や様子を「だれが、なにを、どうした」の文に絞った観点で書くことができるワークシートを活用させるようにする。</p> <p>○ 作品を読むときの観点は、書くときに気を付けることや工夫であることを再確認するようにする。</p> <p>☆ 書いた作品を電子黒板で提示することで、一斉に見聞きすることができるようにする。</p> <p>また、工夫されている点についてサイドラインを引き、確かめることができるようにする。</p> <p>○ 作品のよさを再確認することで、本時の振り返りができるようにすると共に、自分の作品の校正や推敲ができるようにする。</p> <p>○ 自分の作品、板書や電子黒板、学習計画表で本時の学習を振り返ることで、次時の学習への意欲を高めることができるようにする。</p>
深 め る (25)		
味 高 わ め う る (10)		
ま 広 と め る (5)		